鉢の木挽き

交流が生んだ感動の出会い
そこで見た木挽きの姿とは

八月二十二日、二十三日の二日間、木挽きの会有志五人で、新潟県まで木挽きの実演に行ってきました。

十日町市真田に鉢という集落があります。その集落に今回の活動の場、『語らいの家』はひっそりと建っていました。その語らいの家は、代々、木挽きの職人であった尾身家の住居だったそうです。今は住む人もなく、木挽き職人の未亡人・尾身ミノさんが木挽きの道具などを展示する展示館にして、その存在を知って欲しいと開いたものだそうです。

今回、木挽きの会がこの集落にやってきたのは、この語らいの家を拠点に活動する人たちの招請で木挽きの実演と体験会をするためでした。折からこの十日町市の一帯で、大地の芸術祭が開かれていて、鉢の石仏を訪れる人も多く、その駐車場で我々がやっている木挽きの実演を見物して、参加してくれる人がかなりの数いました。上は一人で鉢の集落で暮らす九十七歳のおばあちゃんから、この地区の木挽きの末裔かと思わせる四歳のちびっ子まで、実に皆さん楽しそうに大鋸を挽いていました。中には木挽きの会に入りたいとか、大鋸を買いたいと言い出す人まで、かなりの熱気を感じさせる場面もあり、遠い所をやって来た私たちにも、とても張り合いを感じさせてくれる二日間でした。何より嬉しく感じたことは、参加された皆さんが、一様に感じ、口にすることは、丸太を挽く音や木の香りに癒されると言って、本当に満足感を浮かべていたことです。夜は、スタッフや集落の人が用意してくれた食事に舌鼓を打ち、尾身ミノさんのたっての願いで、太子講の段取りもされていて、初めてそれを体験する会員には厳粛な気持ちにさせられる場面もありました。この実演・体験会では、杉を立て返しで、栗をすくい挽きで、それぞれ制限時間内に挽き終わることができ、何とか面目を保ったようです。栗は挽いた面に渋のあくが出て、しばらくは雨、雪にさらし、抜ける頃にこの越後の鉢集落を密かに再訪したいと考えています。

しかし、世田谷の木挽きが、元木挽きが未だ多く生存されているこの地に来て、そのつたない技術を披露すると言うのも何かおかしな逆転現象ではありましたが、教えたり、教わったりの意義ある会であったことは間違いありません。江戸木挽きの林以一氏に師事する我々は、今後「世田谷木挽き」として、こうした機会をもっと有用に活用して行きたいものです。

鉢集落で木挽きが闊歩していた時代は、大鋸を背に歩いていく木挽きさんのかっこ良さと言ったらなかったそうです。昔は、可愛かったであろうおばあちゃん達（今もとってもチャーミングですよ！）は、昔を偲んで、目を潤ませていました。決して私だけの思い込みではないと思います。真似して、大鋸背負って民家園へ行こうかな？世田谷でそんなことしたら、警察に凶器準備集合罪で捕まっちゃいますかね・・・

最後になってしまいましたが、お世話になった『語らいの家』のスタッフの皆さん、美味しい食事と、素晴らしい体験をさせていただきまして大変ありがとうございました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。皆で挽いた栗のベンチが、あの鉢の石仏の何処かに据えつけられましたら、もう一度、鉢を訪れてみたいと思っています。あの石仏のある一帯は、何かが棲むところだと感じたのは、木挽きに行った私たち全員の一致する気持ちでした。何かに遭いにもう一度・・・・。おしまい。

（木挽きの会　吉岡　久信）

いよいよ来ましたこの季節

手作り市

【日　時】11月23日（祝）9:30～15:30

【場　所】次大夫堀公園民家園内

【内　容】
手作り品の販売
民家園ボランティア手作り品の販売
そば打ちの実演　ほか